

県立佐原病院の現状と課題

—地域包括ケア・地域医療のモデルに—

県立佐原病院を訪れ現状と課題についてお聞きしました（小林院長・林事務局長・大坂看護師長）。2011年3・11直後に訪れた時は床が傾き耐震工事の必要性を感じましたが、残念ながら今でも補強程度の対応しかしておらず病床が100床ほどある本館のIS値は0.43のまま。手術室は別棟で新築したが本館の耐震性がないので、二階からまっすぐ繋げず一階まで下り狭い直角の廊下にベットの移動させる構造に……。耐震性について小林院長も抜本的に（建て替えを含め）考えなければと語っていました。

病院経営は、一時赤字から脱して黒字化しましたが、平成25年度—1.5億円・平成26年度—6億円の赤字の状態。“医師の不足”が決定的とのこと。昨年から今年にかけても常勤の医師20人が16人に。外科1名内科1名泌尿器科1名脳外科1名の減はストレートに病院の収益に表れていま



した。脳神経外科の入院延べ人数はH25年6235人がH26年には2979人に、眼科は306人が0人に、内科も29360人が24775人にといった状態です。それ故医療収益はH25年41億6000万円がH26年には37億1900万円と3億円以上も減収。

医師確保をどうするのか？佐原病院だけに任せるのではなく県の病院局として対策を立てるべきです。このままでは第二の東金病院になりかねません。まさか千葉県は県立病院として佐原病院の様な地域医療の病院はいらないと考えているのではないでしょうね？議会で執行部の答弁からして心配です。

小林院長は、「今は7:1の病床だが、それ以外の10:1病床そして地域包括ケア病床と病棟ごとに変えていきこれからの地域医療のモデルにしたい」と方向性を語りました。

病院内にある「訪問看護室」については大坂看護師にお伺いしました。24時間対応、看護師は常勤9名非常勤2名計11名で香取海匝地区と茨城県の人々をその対象にして事業化。“訪問看護ステーション”にすべく準備をしているとのこと。看取りを含めて一日20件程とニーズは高く、佐原病院の訪問看護師（認定看護師）を中心に地域の訪問看護師のスキルアップ・質の向上のため勉強会も開いているとのことです。

医療依存度の高い高齢者、看取りとこれからの大きな課題に伝えるべく頑張っているその心意気に敬服しました。それなのに県からの予算もなく、車は県からの20年たった古い車の払い下げを含めて4台しかなく看護師自己所有の自動車で活動しているとのこと。

“在宅”“地域包括”と言うなら、県立佐原病院の訪問看護ステーションを成功させるためにも車の予算ぐらいはつけるべきと思われました。